

# 東京都縮尺 1 / 2,500 地形図 標準データファイル

製品説明書

ver.20110401



## 目 次

	ページ
1. 製品概要 _____	1
1-1 本製品の特徴 _____	1
1-2 提供エリア _____	1
1-3 データ仕様 _____	2
2. データ取得項目と取得基準 _____	3
3. フォーマット仕様 _____	8
3-1 データファイルの構造 _____	8
3-2 データファイルの構成 _____	9
3-3 座標の記述 _____	9
3-4 レコードタイプ及びデータタイプの種類等 _____	9
3-5 データファイルの形式 _____	10
3-6 データファイルの作成基準 _____	10
3-7 データファイルのレコードフォーマット _____	11
3-8 データファイルのコードの種類 _____	11
4. 製品についてのお問合せ _____	20

# 1. 製品概要

---

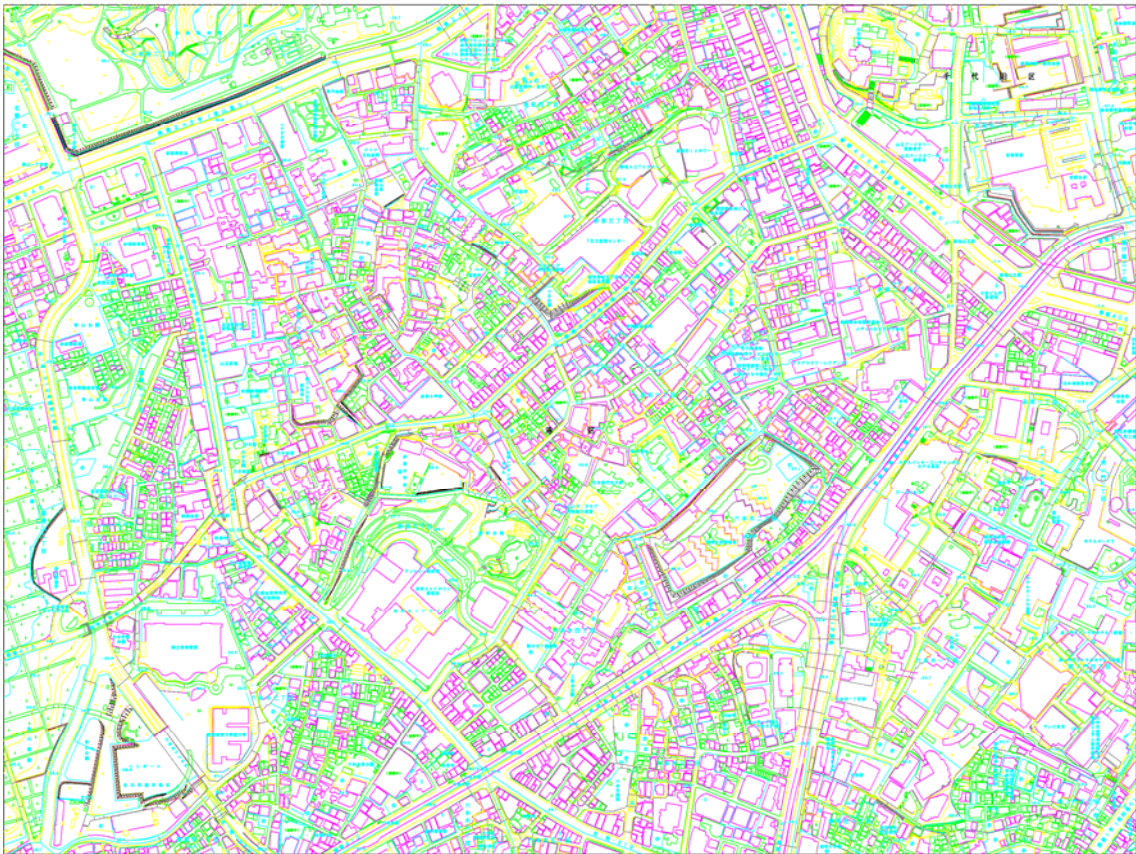
## 1-1 本製品の特徴

---

東京都縮尺 1/2,500 地形図 標準データファイルは、空中写真測量によって作成されたデジタルマッピング地形図データです。このデータは東京都全域をカバーする正確な電子地図（公共測量成果）です。

電子地図のフォーマットは、国土地理院で定められた DM 標準フォーマットに準拠した東京都デジタルマッピング標準フォーマットに従って作成されていますので、そのデータを CAD や GIS 等のシステムへ変換することで位置関係を正しく表示することができます。

またオプションとして、地理情報システム（GIS）のデータとしてフォーマット形式が公開されているシェープファイルでの提供もいたします。



上記図面は、標準データファイルを「DmReader for DWG」（パスコ社製）を使って、変換した画像です。地物毎に細かくレイヤが分かれています。

## 1-2 提供エリア

---

東京都の全域

（島しょ部：大島・利島・新島・式根島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島・青ヶ島・父島・母島）

### 1-3 データ仕様

---

- |             |   |
|-------------|---|
| ① 製品の種別     | 東京都縮尺 1/2,500 地形図標準データファイル  |
| ② 提供フォーマット  | 東京都デジタルマッピング標準フォーマット  |
| ③ 座標系       | 測地成果 2000 に基づく平面直角座標系<br>区部・多摩部・伊豆諸島：第 9 系<br>小笠原諸島（父島・母島）：第 14 系   |
| ④ 位置精度      | 道 路 部：標準偏差±0.70m・最大 1.0m 以内<br>（地図情報レベル 1/1,000）<br>建 物：標準偏差±1.00m・最大 1.5m 以内<br>高 さ：標準偏差±0.66m・最大 1.0m 以内<br>そ の 他：標準偏差±1.75m・最大 2.5m 以内   |
| ⑤ メッシュ体系    | 国土基本図 1/2,500(2km×1.5km)のメッシュ体系   |
| ⑥ データ単位     | 1 図郭=1 ファイル   |
| ⑦ データのボリューム | 約 6～15MB 程度<br>※地域によってデータのボリュームは大きく変わります。   |
| ⑧ データ作成時点   | 2 3 区：2009 年 2 月<br>多 摩 部：2008 年 11 月～2009 年 9 月<br>島しょ部：2009 年 1 月～2009 年 5 月  |
| ⑨ 構造化データ    | （レイヤ 13 項目）<br>図 郭 線：国土基本図 1/2500（2 k m × 1.5km）<br>行 政 界：都県界， 郡市・東京都区界， 町村界， 大字・町<br>（丁）界<br>一般道路：国道， 都道， 高速道路， 区市町村， その他<br>鉄 道：普通鉄道， 路面鉄道， モノレール等<br>建 物：普通建物， 堅牢建物(鉄筋コンクリート等)， 普通無<br>壁舎(温室・倉庫等)， タンク等<br>植 生：植生界， 耕地界等<br>地 形：等高線， がけ等<br>建物記号：官公署， 郵便局， 交番・駐在所， 消防署等<br>小 物 体：墓碑， 火の見， 送電線等<br>水 部：水涯線， 一条河川， ダム， 堰等<br>注 記：区市町村名， 道路名称， 橋， トンネル名， 建物名等 |
| ⑩ 販売単位      | 図郭単位  |
| ⑪ データ提供メディア | DVD-R を基本   |

## 2. データ取得項目と取得基準

データ取得項目と取得基準については次のとおりです。

図形分類	名 称	データ取得基準	適 用
11 1	都県界	境界の位置を取得しています。原則として境界の真位置と一致させていますが、図面上で転位及び間断が必要な部分は、転位及び間断後の位置としています。	
11 3	郡市・東京都区界		
11 4	町・村界		
11 6	大字・町（丁）界		
21 1	真幅道路	縁線を取得しています。道路の終端は、原則として閉じていません。	重複部分（へい・さく等と接する部分及び高架下等）は、陰線処理しています。
21 3	徒歩道	中心線を取得しています。	幅員 1.0m 未満のもの
21 6	庭園路	縁線を取得しています。	幅員 1.0m 未満を取得しています。
21 10	高速道路	縁線を取得しています。道路の終端は原則として閉じていません。	重複部分（高架下等）は、陰線処理しています。
22 3	道路橋	縁線を取得しています。この部分は道路データを間断しています。	延長 2.5m 以上のものを取得しています。高架部(道路)も含まれます。
22 5	徒橋	中心線を取得しています。	幅 1.0m 未満のもの
22 11	横断歩道橋	外周を取得しています。	幅 1.0m 未満の場合は、1.0m として取得しています。幅 3m 未満の場合は、下部道路は陰線化していません。
22 13	歩道	車道との界線を取得しています。	歩道幅員 1.5m 以上、かつマウンドアップされているものを取得しています。高架下は間断しています。
22 14	石段	縁線を取得しています。	道路と石段が接続する場合は、重複して取得されてます。
22 15	地下街・地下鉄等出入	外周を取得しています。	
22 19	道路のトンネル	坑口部分の外周を取得しています。極小のものは中央位置の点と方向を取得していません。	トンネル内の道路は、取得していません。
22 26	分離帯など	図上 0.4mm 以上は外周を取得しています。0.4mm 未満は中心線を取得しています。	陰線処理は行わず、間断して取得しています。
22 28	道路の雪覆い等	外周を取得しています。データは重複しても取得しています。	下部の道路は陰線データとして取得しています。歩道のみにかかるようなアーケードは取得していません。
22 38	並木	樹木の位置の点情報を取得しています。	樹木の間隔が図上 3.0m 未満の場合は適宜省略しているところがあります。道路には、かからないように取得しています。歩道として認められない部分は、取得していません。
23 1	普通鉄道	中心線を取得しています。	鉄道は、トンネル内（トンネルと同様な高架下の鉄道を含む。）では、データを取得していません。
23 3	路面の鉄道		
23 4	モノレール		
23 5	特殊鉄道（新交通）		
23 6	索道		
24 1	鉄道橋	縁線を取得しています。下部の鉄道は、陰線処理しています。	立体交差部の高架部も鉄道橋として扱っています。
24 11	跨線橋	外周を取得しています。	
24 19	鉄道のトンネル	坑口部分の外周を取得しています。	
24 21	停留所（路面電車）	外周を取得しています。	プラットフォームの上屋がある所は（3003）無壁舎のみを取得しています。安全島がない場合は、想定される範囲を取得しています。

図形分類	名称	データ取得基準	適用	
24 24	プラットフォーム	外周を取得しています。	プラットフォームの上屋がある所は(3003)無壁舎のみを取得しています。	
24 26	モノレール橋脚	橋脚の外周を取得しています。		
24 28	鉄道の雪覆い等	外周を取得しています。	幅 3.75m 未満のものは、3.75m として取得しています。下部の鉄道は、陰線処理しています。	
30 1	普通建物	外周を取得しています。	3 階以上のもの(木造を除く。)堅牢無壁舎も含まれます。	
30 2	堅ろう建物			
30 3	無壁舎			
34 1	門	門柱の外周を取得しています。		
34 2	屋門	建物の中の道路縁線を取得しています。		
34 4	プール	プールの水際を取得しています。	W は記号を(3404)で取得しています。	
35 3	官公署	記号を表示する場合は、記号の表示位置の点情報を取得しています。但し、平面図形は記号の下中央部となっています。	公共施設に関しては原則として注記表示としています。	
35 4	裁判所			
35 5	検察庁			
35 7	税務署			
35 9	郵便局			
35 10	営林署			
35 15	警察官駐在所・派出所			
35 16	消防署			
35 17	職業安定所			
35 19	市・特別区・町・村・特定都市の区の役場支所及び出張所			
35 21	神社			
35 22	寺院			
35 23	キリスト教会			
35 24	学校			
35 25	幼稚園・保育園			
35 26	公会堂・公民館			
35 28	図書館			
35 29	美術館			
35 31	保健所			
35 32	病院			
35 34	銀行			
35 36	協同組合			
35 38	市場			
35 39	デパート・スーパーマーケット			
35 45	倉庫			
35 46	火薬庫			
35 48	工場			
35 49	発電所			
35 50	変電所			
35 56	揚排水ポンプ場			
35 60	ガソリンスタンド			
35 70	映画館			主用途が映画館のものを表示しています。
42 1	墓碑			記号の表示位置の点情報を取得しています。但し、平面図形は記号の中心、側面図形は記号の下中央部となっています。
42 2	記念碑			
42 3	立像			
42 7	鳥居	脚間を中心線で取得しています。極小は中央位置の点と方向を取得しています。		
42 19	坑口	外周を取得しています。極小のものは中央位置の点と方向を取得しています。		
42 20	独立樹(やし科)	記号の表示位置の点情報を取得しています。但し、平面図形は記号の中心、側面図形は記号の下中央部となっています。		
42 21	独立樹(広葉樹)			
42 22	独立樹(針葉樹)			
42 25	油井・ガス井			

図形分類	名 称	データ取得基準	適 用
42 31	タンク	形状に応じて円・線で表示しています。円の場合は円周上の3点を取得しています。極小のものは中央位置を点で取得しています。	
42 32	給水塔	外周を線で表示し、中心に記号を表示しています。	基部の大きさが図上 3.0mm 以上のものは、基部の外周を高塔(4235)で取得しています。
42 33	火の見		
42 34	煙突	基部の外周を円・線で取得し、記号表示位置を点で取得しています。	基部の大きさが図上 1.2mm 以上のものは基部の外周を取得しています。
42 35	高塔	基部の外周を線で取得しています。極小のものは中央位置を点で取得しています。	
42 36	電波塔	基部の外周を線で取得し、記号位置を点で取得しています。	基部の大きさが図上 1.2mm 以上のものは基部の外周を高塔(4235)で取得しています。
42 41	灯台		基部の大きさが図上 3.0mm 以上のものは基部の外周を取得しています。 航空用の灯台の場合は、記号(空)を(4242)で横に添えています。
42 42	航空用灯台記号	記号の表示位置を点で取得しています。	
42 43	灯標		
42 51	水位観測所(量水所)		
42 61	輸送管(地上)	外周を取得しています。始終点は一致させています。	幅 1.0m 未満は 1.0m として取得しています。大規模なものには記号を配置しています。
42 62	輸送管(空間)		
42 63	輸送管記号(水)	記号の表示位置を点で取得しています。	
42 64	輸送管記号(油)		
42 65	送電線	中心線を取得しています。	鉄塔の中心で結線させる。線は間断しない。
51 1	水涯線 (河川) (海岸線) (湖・池)	界線を取得しています。	重複又は交差する場合は陰線処理しています。 Wは記号を(5101)で取得しています。
51 2	用水路(一条河川)	中心線を取得しています。	
51 3	かれ川	流水部の想定線を取得しています。	
52 2	棧橋 (鉄・コンクリート)	海側を右に外周を取得しています。	データ取得に方向性があります。
52 3	棧橋(木製・浮棧橋)	外周を取得しています。	
52 11	防波堤	被覆と同様です。	
52 21	渡船発着場	表示位置の点と方向を取得しています。	
52 25	ダム	被覆と同様	
52 26	滝	上流部を左に見る形で中心線を取得しています。	データ取得に方向性があります。
52 27	せき		
52 28	水門	両側の構造物は外周を取得しています。仕切り部は中心線を取得しています。極小のものは中央位置の点と方向を取得しています。	
52 31	不透水制	被覆と同様	
52 32	透過水制	外周を取得しています。	
52 33	水面下水制	始終点座標を一致させています。	
52 39	敷石斜坡		
52 41	流水方向	表示位置の点と方向を取得しています。	
52 42	汐入川		
61 1	人工斜面	上端部と下端部を取得しています。上端部は低い方を右に、下端線は高い方を右に見る形で取得しています。	データ取得方向性があります。
61 2	土堤等	頂部の中心線を取得しています。	
61 10	被覆	被覆(大)は上端線と下端線 を取得しています。上端線は低い方を右に、下端線は高い方を右に見る形で取得し、被覆(小)は頂部のみの線を上端線として取得しています。	データ取得方向性があります。

図形分類	名称	データ取得基準	適用		
61 30	さく等	中心線を取得しています。			
61 40	へい	内側を右に見る形で、中心線を取得しています。	データ取得方向性があります。		
62 1	区域界	界線を取得しています。			
62 5	公園	記号表示位置を点で取得しています。	面積がおおむね図上 1cm <sup>2</sup> 以上のものを表示しています。		
62 12	駐車場				
62 14	園庭				
62 16	材料置き場				
62 21	噴火口・噴気口				
62 22	温泉・鉱泉				
62 25	城・城跡				
62 31	採石場				
62 33	採鉱地				
62 40	テニスコート				
62 41	グラウンド	記号表示位置を点で取得しています。			
63 1	植生界	界線を取得しています。			
63 2	耕地界	中心線を取得しています。			
63 11	田	記号表示位置を点で取得しています。			
63 13	畑				
63 17	桑畑				
63 18	茶畑				
63 19	果実園				
63 21	その他の樹木園				
63 23	芝地				
63 31	広葉樹林				
63 32	針葉樹林				
63 33	竹林				
63 34	荒地				
63 35	はい松地				
63 36	しの地（笹地）				
63 37	やし科樹林				
63 38	湿地				
63 40	砂れき地				
71 1	等高線（計曲線）			等値線を取得しています。（標高値は属性値）	被覆、人工斜面、変形地等との重複取得はしていません。他の物と重複する場合は間断フラグを付与しています。凹地はデータ取得に方向性があります。
71 2	等高線（主曲線）				
71 3	等高線（補助曲線）				
71 5	凹地（計曲線）	凹地（大）は低い方を右に見る形で等値線取得しています。			
71 6	凹地（主曲線）				
71 7	凹地（補助曲線）	凹地（小）は等値線と矢印（高い方から低い方へ）を線で取得しています。			
71 99	凹地（矢印）	記号表示位置の点と向きを取得しています。			
72 1	土がけ	上端線と下端線を取得しています。上端線は低い方を右に、下端線は高い方を右に取得しています。	データ取得に方向性があります。他のデータ（道路、水涯線）と重複する場合でも取得しています。		
72 2	雨裂	雨裂は、高い方から低い方に向かって中心線を取得しています。	データ取得に方向性があります。		
72 6	洞口	記号表示位置の点と向きを示す方向を取得しています。			
72 11	岩がけ	上端線と下端線を取得しています。上端線は低い方を右に、下端線は高い方を右に取得しています。	データ取得に方向性があります。		
72 12	露岩	高度の高い方を右に見る形で界線を取得しています。			
72 13	散岩	射影の外周を取得しています。極小は記号表示位置の点を取得しています。			
73 1	国家三角点	基準点記号又は指示点表示位置を取得しています。	標高値は属性値として持っています。電子基準点の標高値は、電子基準点付属標の標高としています（cm）。		
73 2	国家水準点				
73 3	多角点及び標石を有する図根点等				
73 4	東京都公共基準点				
73 5	東京都公共水準点				

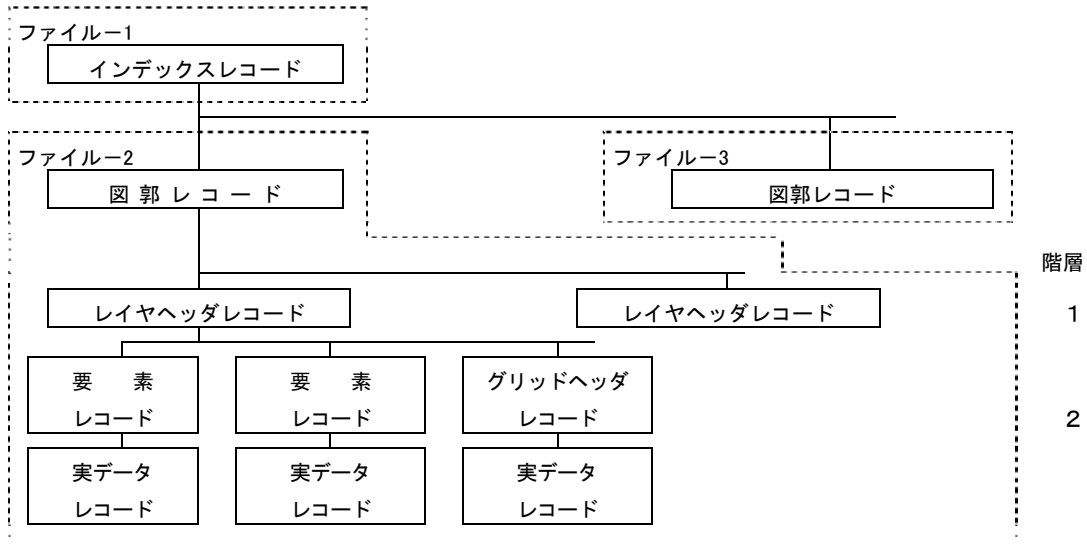


図形分類	名 称	データ取得基準	適 用
73 11	標石を有しない標高点	基準点記号又は指示点表示位置を取得しています。	標高値は属性値として持っています。電子基準点の標高値は、電子基準点付属標の標高としていません(cm)。
73 12	図化機測定による標高点		
81 99	指示点		
81 10	郡市・東京都の区名	横列表示の場合は文字列の第一文字の左下の位置を、縦列表示の場合は文字列の第一文字の左上位置を取得しています。	新交通及びモノレールも含む。
81 11	町村名		
81 12	市・町・村の飛地名		
81 14	大字・町(丁)名		
81 15	小字名		
81 16	通り名		
81 21	道路の路線名		
81 22	坂・峠・道路施設・インターチェンジ等の名称		
81 23	鉄道の路線名		
81 24	操車場・信号所・鉄道施設名		
81 25	橋名		
81 26	トンネル名		
81 31	一般の建物名		
81 32	病院建物名		
81 33	警察建物名		
81 34	消防建物名		
81 35	郵便建物名		
81 36	駅舎建物名		
81 37	役所建物名		
81 38	学校建物名		
81 39	NTT 建物名		
81 42	小物体名称		
81 51	水部(河川・湖・池・港)名称		
81 52	水部に関する構造物		
81 62	場地名		
81 63	植生名		
81 71	山地名		
81 73	標高数値		
81 81	説明注記		

### 3. フォーマット仕様

#### 3-1 データファイルの構造

データファイルの構造は、図郭、レイヤ、要素及びグリッド、実データの階層構造とし、その一般形は、次図のとおりです。



- (1) インデックスレコードとは、当該データファイルに含まれる図郭数、各図郭の識別番号等の概要を記述したレコードをいいます。
- (2) 図郭レコードとは、当該図郭の識別番号や図郭の隅の座標、データファイルの作成に関する情報等の図郭に共通する事項を記述したレコードをいいます。
- (3) レイヤヘッダレコードとは、図式の大分類及び小分類の順に分類して記述されているデータの、各図式大分類の先頭に位置するレコードで、その分類コードやその中の要素数等を記述したレコードをいいます。
- (4) 要素レコードとは、各要素の表現分類コードやデータタイプ（線、円、注記等）、実データ数等を記述したレコードであり、その表現方法は次のとおりとしています。
  - ① 原則として、実データのうち座標レコード、注記レコード、属性レコードのいずれかと対になり、その前に位置します。ただし、座標を 1 点しか持たない要素の場合は、実データレコードを持たずに記述しているところがあります。
  - ② 等高線、独立標高点等の標高値は、要素レコードの「属性数値(cm)」として記述しています。
  - ③ 橋や水門等、複数のデータで 1 つの地図記号を表すものにおける各データを関連付けるためのグループ化、及び地図記号と建物記号又は注記を関連付けるためのグループ化はいずれも行っていない。
- (5) グリッドヘッダレコードとは、グリッドデータの原点座標及びグリッドの距離間隔や縦、横の個数を示したものです。
- (6) 実データレコードとは、実データを記述したレコードをいい、次のいずれかにより表現されます。
  - ① 各要素（図形や記号位置等）の座標値は、「座標レコード」により表現するものとし、記述されるレコードの数は、座標データの数に応じて可変しています。なお、座標は XY の 2 次元データとして記述しています。
  - ② 漢字や文字の注記データは、「注記レコード」により表現するものとし、レコードの数は、注記データの字数に応じて可変としています。

- ③ 特殊な内容のものを記述する必要性が生じた場合は、「属性レコード」により記述しています。なお、当レコードは特に指定する場合を除き使用していません。
- ④ グリッドデータは「グリッドレコード」で記述しています。

### 3-2 データファイルの構成

データファイルは、インデックスレコードの部分が1ファイルとなり、その他のレコードは、図郭単位に1ファイルとして構成されます。

### 3-3 座標の記述

座標の記述は、次のとおりです。

- (1) 全ての地物及び行政界等は、原則、曲線部分を含めて点又は点列座標で記述しています。
- (2) 記述される座標値は、図郭左下からの測地座標（cm 単位）によるものです。

### 3-4 レコードタイプ及びデータタイプの種類等

各要素等のレコードタイプ及びデータタイプの種類並びに実データレコードの関係は、以下のとおりです。

レコード種別	データタイプ	レコードタイプ	階層レベル	関連する実データレコード
インデックス		I		
図 郭		M		
レイヤヘッダ		H	1	
要 素	面	E1	2	座標レコード
	線	E2		
	円	E3		
	円弧	E4		
	点	E5		
	方向	E6		
	注記	E7		
	属性	E8		
グリッドヘッダ	グリッド	G		注 記 レ コ ー ド 属 性 レ コ ー ド グ リ ッ ド レ コ ー ド

- (1) 建物等の閉図形を表現する場合は、「面データ」で表現するものとし、その実データレコードは、3点以上の座標値からなり、始点と終点座標を合致させています。
- (2) 道路等を表現する点列データは、「線データ」で表現するものとし、その実データレコードは、2点以上の座標値からなります。
- (3) タンク等の円筒状や球状のものを表現する場合は、「円データ」で表現するものとし、その実データレコードは、必ず3点の座標値からなります。
- (4) 図郭で分断された円データ等は、「円弧データ」で表現するものとし、その実レコードは、円と同様に必ず3点の座標値からなります。
- (5) 建物記号や植生記号等の1点で1つの地物等を表現する場合は、「点データ」で表現するものとし、実データの記述方法は、次のいずれかになります。

- ① 同一種類の複数の点データを1つの要素で表現しています。なお、この場合は、実データレコードとして2点以上の座標値からなる座標レコードを持っています。
  - ② 実データレコードを省略し、要素レコードの「代表点の座標」欄に当該座標を記述しているところがあります。この場合、要素レコードの「レコード件数」欄は「0」としています。
- (6) 坑口（極小）、洞口等方向を表現する場合は、「方向データ」で表現しており、その実データレコードについては、1点目は記号を表現する位置、2点目はその記号の向きを表す2点一組の座標列で表現しています。なお、この場合、同一種類で位置の異なる複数の方向型データを1つの要素で表現しており、実データレコードとして2点以上の偶数点の座標値からなる座標レコードを持ちます。
- (7) 図面出力において必要な注記は、「注記データ」で表現しており、実データレコードとして1レコード以上の注記レコードを持ちます。
- (8) 特殊な内容のものを記述する必要がある場合は、「属性データ」で表現しており、その実データレコードとして1レコードの属性レコードを持ちます。

### 3-5 データファイルの形式

データファイルの形式は、以下の仕様のとおりです。

- (1) レコード形式は、84 バイト固定長としています。
- (2) 文字コードは、英数カナ文字、および漢字（全角）については JIS コードです。
- (3) 記述書式は、FORTRAN の書式に準拠し、その記述方法は、以下のとおりとします。
  - ① 数値項目のフィールドは右づめで数字を入れ、余白部分はスペースしています。また、数値が負の数の場合は、フィールドに－（マイナス符号）を入力しています。

I3		
	－	1

- ② 文字項目のフィールドは、左づめで文字を入れ、余白部分は、スペースとしています。

A3		
1		

- ③ 漢字項目のフィールドは、文字項目と同様であり、スペースは、漢字スペース（hex2121）を入力してあります。なお、書式は、Nで表現しています。

N2	
漢	字

- (4) ファイルの格納方法は、インデックスレコードはそれだけで1ファイル、その他のレコードは、1図郭分で1ファイルとしています。
- (5) ファイルは、ラベルを持ちません。

### 3-6 データファイルの作成基準

データファイルの作成は、以下の方法に従って作成されています。

- (1) データファイルにおけるデータレコードの記述順序は、次のとおりです。
  - ① レイヤコードの小さい順に要素を並列。

- ② データ項目のコードの小さい順に要素を並列。
  - ③ 同じ図式分類コードは、識別番号の小さい順に並列。
- (2) 面、線、円、円弧で表現されるデータには方向性はありませんが、被覆及び人工斜面等の左右非対象図式を持つものについては、その方向性を「2. データ取得項目と取得基準」に定める方法により作成されています。
- (3) 地域や地物の名称、標高数値等を表現するための注記データは、原則として個々の1要素として記述しています。ただし、表現上における理由で一つの注記データを複数の要素に分割又は1文字1要素としています。
- (4) 属性データは、特殊な内容のものを記述する必要が生じた場合に用いられるデータであるため、記述の内容は一定ではありません。したがって、要素レコードに属性データの種別区分を表示し、「属性データ書式」にそのフォーマットを記述しています。

### 3-7 データファイルのレコードフォーマット

データファイルの各レコードフォーマットは、次のとおりです。

- |               |         |
|---------------|---------|
| ① インデックスレコード  | 図-1 参照。 |
| ② 図郭レコード      | 図-2 参照。 |
| ③ レイヤヘッダレコード  | 図-3 参照。 |
| ④ 要素レコード      | 図-4 参照。 |
| ⑤ グリッドヘッダレコード | 図-5 参照。 |
| ⑥ 座標レコード      | 図-6 参照。 |
| ⑦ 注記レコード      | 図-7 参照。 |
| ⑧ 属性レコード      | 図-8 参照。 |
| ⑨ グリッドレコード    | 図-9 参照。 |

### 3-8 データファイルのコードの種類

データファイルに記述されるコードの種類は、以下のとおりです。

コード名称		レコード名称				
		インデックス	図郭	レイヤヘッダ	要素	注記
1	レコードタイプ	○	○	○	○	
2	転位処理フラグ	○			○	
3	間断処理フラグ	○			○	
4	使用データタイプフラグ	○				
5	座標次元区分	○				
6	図式分類	○		レイヤコード	○	○
	コード			データ項目コード	○	○
8	数値化区分			○		
9	実データ区分				○	
10	精度区分				○	
11	注記区分				○	
12	図形区分				○	
13	間断区分				○	
14	転位区分				○	
15	注記書体区分					○
16	縦横区分					○

- (1) レコードタイプは、当該レコードの種別を示すコードであり、「5-1-7 データファイル」にて示したレコードフォーマットです。
- (2) 転位処理フラグは、当該データファイル内のデータが、転位処理を行なっているかどうかを示すコードであり、転位処理を行なっている場合は「1」、行なっていない場合は「0」を記述しています。
- (3) 間断処理フラグは、当該データファイルが間断処理（間断フラグの付与）を行なっているかどうかを示すコードであり、間断処理を行なっている場合は「1」、行なっていない場合は「0」を記述しています。
- (4) 使用データタイプフラグは、当該表現分類が各データタイプを使用しているかどうかを示すコードであり、使用しているものに「1」を記述しています。
- (5) 座標次元区分は、当該表現分類の座標値の次元を示すコードであり、二次元座標値を採用しているので「2」を記述しています。
- (6) 図式分類コードは、各要素の種類を表すためのコードであり、レイヤコードとデータ項目コードからなります。
- (7) 数値化区分は、当該レイヤの要素が主にどのような手法によって数値化されたかを示すコードであり、以下のとおりです。

コード	内 容
1	基準点測量成果を用いる方法
2	トータルステーション (TS) を用いた数値実測による方法
3	数値図化法・他のDMデータの利用
4	マップデジタイズ法 (無伸縮の図面を用いる方法)
5	マップデジタイズ法 (伸縮の図面を用いる方法)
9	その他

- (8) 実データ区分は、後続の実データレコードが何であるかを示す区分であり、以下のとおりです。

コード	内 容
0	実データ無し
2	二次元座標レコード
4	注記レコード
5	属性レコード

- (9) 精度区分は、要素毎のデータ取得しています。時における精度の目安を示すコードであり、2桁で表現され、上位桁は、(7)数値化区分と同様の取得しています。方法による区分を示し、下位桁は縮尺による区分を示しています。

コード	上位桁	下位桁
	取得手法区分	縮尺区分
1	基準点測量成果を用いる方法	～ 1/50
2	TSを用いた数値実測による方法	1/50 ～ 1/100
3	数値図化法・他のDMデータの利用	1/100 ～ 1/250
4	マップデジタイズ法 (無伸縮図面)	1/250 ～ 1/500
5	マップデジタイズ法 (伸縮図面)	1/500 ～ 1/1,000
6		1/1,000 ～ 1/2,500
7		1/2,500 ～ 1/5,000

- (10) 注記区分は、注記データが漢字データか英数カナ文字データかを示すコードであり、漢字データは「1」、英数カナ文字データは「2」を入力しています。
- (11) 図形区分は、図面出力上必要な区分レコードであり、以下のとおりです。

コード	内 容	対象となる取得分類項目
0	非区分	下に該当しない全データ
11	射影部の上端	土がけ、岩がけ、ダム、人工斜面、被覆等の射影を持つもの
12	射影部の下端	
99	作図補助データ	人口斜面、被覆、土がけ、岩がけ、階段等の補助データ

- (1 2) 間断区分は、データとしては存在するが、図面出力時には表示しないような部分に付与するコードであり、以下のとおりです。ただし、n (1~9) は優先順位を表します。

コード	内 容
0	間断しない。
n	間断する。

- (1 3) 転位区分は、図面出力において、データが転位されているか、されていないか区分するコードであり、以下のとおりです。ただし、n (1~9) は優先順位を表します。

コード	内 容
0	転位しない。
n	座標列の方向に対して右側に転位する。
-n	座標列の方向に対して左側に転位する。

- (1 4) 注記書体区分は、注記文字の書体を示すコードであり、直立等線書体を表す「2」を記述しています。
- (1 5) 当該要素レコードに続くレコードが注記レコード以外の場合は、「0」を記述しています。
- (1 6) 縦横区分は、注記文字列を縦に出力するか、横に出力するかを示すコードであり、横書きの場合は「0」、縦書きの場合は「1」を記述しています。

図-1 インデックスレコード

レコードタイプ	座標系	計画機関名															図画数	図葉識別番号	図式分類数	図断処理フラグ	使用した作業規定	空き領域																																																													
A2	I2	N15															I3	I2	I4	I1 I1	N15															5X																																															
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84
															西暦年号															作業規定名																																																					

(B)

図郭認識番号(1)	図郭認識番号(2)	図郭認識番号(3)	図郭認識番号(4)	図郭認識番号(5)	図郭認識番号(6)	図郭認識番号(7)	図郭認識番号(8)	図郭認識番号(9)	図郭認識番号(10)	空き領域
A8	A8	A8	A8	A8	A8	A8	A8	A8	A8	X4
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
※このレコードは、(A)中に記されている図郭小位番号レコード数分だけ続きます。										

(C)

レコードタイプ	座標系	計画機関名	図郭認識番号(1)	図郭認識番号(2)	図郭認識番号(3)	図郭認識番号(4)	図郭認識番号(5)	図郭認識番号(6)	図郭認識番号(7)	図郭認識番号(8)	図郭認識番号(9)	図郭認識番号(10)	図郭認識番号(11)	図郭認識番号(12)	図郭認識番号(13)	図郭認識番号(14)	図郭認識番号(15)	図郭認識番号(16)	図郭認識番号(17)	図郭認識番号(18)	図郭認識番号(19)	図郭認識番号(20)	図郭認識番号(21)	図郭認識番号(22)	図郭認識番号(23)	図郭認識番号(24)	図郭認識番号(25)	図郭認識番号(26)	図郭認識番号(27)	図郭認識番号(28)	図郭認識番号(29)	図郭認識番号(30)	図郭認識番号(31)	図郭認識番号(32)	図郭認識番号(33)	図郭認識番号(34)	図郭認識番号(35)	図郭認識番号(36)	図郭認識番号(37)	図郭認識番号(38)	図郭認識番号(39)	図郭認識番号(40)	図郭認識番号(41)	図郭認識番号(42)	図郭認識番号(43)	図郭認識番号(44)	図郭認識番号(45)	図郭認識番号(46)	図郭認識番号(47)	図郭認識番号(48)	図郭認識番号(49)	図郭認識番号(50)	図郭認識番号(51)	図郭認識番号(52)	図郭認識番号(53)	図郭認識番号(54)	図郭認識番号(55)	図郭認識番号(56)	図郭認識番号(57)	図郭認識番号(58)	図郭認識番号(59)	図郭認識番号(60)	図郭認識番号(61)	図郭認識番号(62)	図郭認識番号(63)	図郭認識番号(64)	図郭認識番号(65)	図郭認識番号(66)	図郭認識番号(67)	図郭認識番号(68)	図郭認識番号(69)	図郭認識番号(70)	図郭認識番号(71)	図郭認識番号(72)	図郭認識番号(73)	図郭認識番号(74)	図郭認識番号(75)	図郭認識番号(76)	図郭認識番号(77)	図郭認識番号(78)	図郭認識番号(79)	図郭認識番号(80)	図郭認識番号(81)	図郭認識番号(82)	図郭認識番号(83)	図郭認識番号(84)
											911											I1 I1											A65																																																					

- 1 レコードタイプ 「(A)」を記述(△)はデータベースを示す。以下に同じ。)しています。
- 2 座標系 平面直角座標系の番号です。
- 3 計画機関名 計画機関名(15文字以内)です。
- 4 図郭数 作業地域内に含まれる図郭数です。
- 5 図郭認識番号レコード数 図郭認識番号を記録するレコード(B)のレコード数です。
- 6 図式分類数 使用している図式分類コードの数です。
- 7 境界データ処理フラグ 境界データの転位処理を行なった場合「1」、行なわない場合「0」と入力されています。
- 8 図断処理フラグ このデータファイルを作成した時に用いられた作業規程の名称です。
- 9 使用した作業規程 西暦年号:作業規程が施行された西暦年 例:2002  
作業地域内:含まれる全図郭番号(図郭数分繰り返し)です。  
作業規程名:使用した作業規程名(漢字15文字以内) 例:東京都公測量作業規定  
作業で使用した図式分類コードです。
- 10 図郭認識番号
- 11 使用分類コード
- 12 図式分類コード
- 13 使用データタイプフラグ 「2. データ取得項目と取得基準」に規程されている図式分類コードです。  
当該図式分類で各データタイプを使用しているか、いないかを示すフラグです。  
(0...使用していない,1...使用している)
- 14 方向規定区分 「3-6 データファイルの作成基準」で規定されているとおりに方向規定を行っているか、いないかを示すフラグ (0...規定どおり,1...別途規定している)です。
- 15 座標次元区分 「2」(2次元)が入力されています。



図-2 図郭レコード

図郭識別番号		図郭名称		地図情報レベル		タイトル名		修正回数		空き領域	
A8		N15		15		N15		12		17X	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

左下図郭座標		右上図郭座標		レイヤー数		要素数		レコード数		座標値の単位	
(m) X		(m) Y		17		16		17		13	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)		(7)		(8)		空き領域	
A8		A8		A8		A8		A8		A8		A8		A8		X4	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84						

撮影年月		現地調査年		月		日		撮影枚数		入力機械名		公共測量承認番号		空き領域	
14		14		11		11		N15		N15		11X			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84												

(E)

作業機関名																																																																																			
左下図郭座標			右上図郭座標			右上図郭座標			右下図郭座標																																																																										
コース番号	年月	縮尺	枚数	開始	終了	コース番号	年月	縮尺	枚数	開始	終了	空き領域																																																																							
												X (cm, mm)	Y (cm, mm)	X (cm, mm)	Y (cm, mm)																																																																				
A4	14	15	11	14	14	A4	14	15	11	14	14	14	12X																																																																						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

(F)

コース番号	年月	縮尺	枚数	開始	終了	コース番号	年月	縮尺	枚数	開始	終了	空き領域																																																																							
												X (cm, mm)	Y (cm, mm)																																																																						
A4	14	15	11	14	14	A4	14	15	11	14	14	14	18X																																																																						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

- レコードタイプ 「M△」と入力されます。
- 図郭識別番号 当該図郭の番号です。
- 図郭名称 当該図郭の図郭名称(漢字10文字以内)です。
- 地図情報レベル 作成する図面の縮尺の分母数です。
- タイトル名 当該図郭のタイトル名です。
- 修正回数 当該図郭についての修正作業を行った回数です、新規作成時には「0」が記入されています。
- 図郭座標 図郭の左下隅、および右上隅のXY座標で、単位はメートルです。
- レイヤ数 当該図郭に含まれるレイヤの数です。
- 要素数 当該図郭に含まれる全要素数です。
- レコード数 当該図郭ファイルの全レコード数です。
- 座標値の単位 「0」と入力されています。これは使用している座標値が「cm」単位であることを意味します。
- 隣接図郭識別番号 当該図郭の周りの図郭番号で左上の図郭から右廻り(全角で8枚)、存在しない図郭はスペース(図-2.1参照)となっています。
- 作成年月 現地調査を行った年月、西暦の下2桁及び月で表現しています。
- 撮影コース数 当該図郭に関連する写真のコース数です。
- レコード件数 撮影コース(レコード)のレコード数です。
- 入力機器名 テータを入力した機器名です。
- 公共測量承認番号 国土地理院の承認番号です。
- 測地成果識別コード 日本測地系で作成 : 0 世界測地系で作成 : 1 日本測地系から世界測地系 : 2
- 図郭識別コード 図郭が切り直された場合 : 1 それ以外 : 0
- 変換手法識別コード 図郭代表点を座標変換 : 1 図郭四隅を座標変換 : 2 全座標データを座標変換 : 3
- 変換手法識別コード 上記以外を座標変換 : 9 それ以外 : 0

※日本測地系とは、測量法(昭和24年)に定められた測量の基準、世界測地系とは、測量法(平成14年4月1日施行)に定められた座標のメートル未満の端数を記述しています。

22 作業機関名 当該作業を実施した機関名(漢字20文字以内)

23 左下図郭座標 左下図郭座標のメートル未満の端数値

24 右上図郭座標 右上図郭座標のメートル未満の端数値

25 左上図郭座標 左上図郭座標のメートル未満の端数値

26 右下図郭座標 右下図郭座標のメートル未満の端数値

27 撮影コース番号 ※23～26は、地図情報レベル2500の場合、「cm」単位です。

撮影年月、写真縮尺、当該図郭に関する写真の撮影コース番号及び撮影年月(西暦の下2桁及び月)です。

写真枚数、写真番号、当該図郭に関する写真の縮尺の分母数及び当該コース番号についての枚数です。

当該図郭に関する写真の開始点及び終了点番号です。

(注): (D)、(E)、(F)のファイルは、基本の時では、(D)、(E)、(F) 第1回目の修正では、(D)、(E)、(F)、(D)、(E)、(F) 第2回目の修正では、(D)、(E)、(F)、(D)、(E)、(F)、(D)、(E)、(F)と、修正が行われる度に追加しています。

1	2	3
8		4
7	6	5

図-2.1

図-3 レイヤヘッドレコード

レコード タイプ	図式分類	要素識別番号		階層レベル	要素数						データ取得年月		空き領域	数値化区分	空き領域																																																																				
		図式分類	空き領域		総数	グループ	面	線	円弧	円	点	方向				注記	属性	グリッド																																																																	
A2	12	16	14	12	15	15	15	15	15	15	15	15	14	18	12	IX																																																																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

1 レコードタイプ 「HAM」と入力。  
 2 図式分類コード 図式分類コードが入力されます。上位2桁がレイヤコード、下位2桁がデータ項目コード(レイヤヘッドでは0)  
 3 要素識別番号 「0」と入力。  
 4 階層レベル 当該レコードの階層上の位置(レイヤヘッドレコードは1、要素グループヘッドレコードは2)です。  
 5 要素数 1レベル下に存在するデータタイプの要素数およびグループ数、総数です。  
 6 データ取得年月 当該グループに属する要素を最初に取得した年月(西暦の下2桁及び月)です。  
 7 数値化区分 数値化の手法を示すコードで、「3-8 データファイルのコードの種類」の(6)により入ります。

図-4 要素レコード

レコード タイプ	図式分類	空き領域	要素識別番号	階層レベル	図形区分	図形区分	実データ区分	精度区分	注記区分	転位区分	間断区分	代表点の座標		属性数値	属性区分	属性データの書式	データ取得年月	空き領域	注記書体区分	空き領域	要素識別番号	反復回数																																																													
												X	Y																																																																						
A2	12	16	14	12	12	12	12	12	11	12	11	14	17	17	12	A7	14	18	12	4X	11																																																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

1 レコードタイプ 面、線等データタイプによって区分される。「3-4 レコードタイプ及びデータタイプの種類等」により入ります。  
 2 図式分類コード 図式分類コードを入れるものとし、上位2桁がレイヤコード、下位2桁がデータ項目コード(レイヤヘッドでは0)からなっています。  
 3 要素識別番号 図形毎の図式分類コード別の順番で、付番の基準は次のとおりです。  
 イ)識別番号は、個々の要素を識別するためのものであり、同じ図式分類の中にも異なる識別番号がつかきます。  
 ロ)識別番号は、図部単位とし、要素別に付きます。  
 ハ)識別番号は、1から開始した4桁以内の一連番号です。ただし、9999を超える場合は0から9999までの一連番号を繰り返します。  
 ニ)要素識別番号は「要素識別番号反復回数」を合わせて一連番号を示します。  
 4 階層レベル 当該レコードの階層上の位置(グループヘッドレコードは1、要素グループヘッドレコードは2)を示します。  
 5 図形区分 図面出力時必要なコードで人工工料面や被覆等の上端には11、下端12、作図補助データは99を記述しています。また、その他の図形の場合は00としています。  
 6 実データ区分 直接出力される実データレコードの区分で、「3-8 データファイルのコードの種類」の(7)により入ります。  
 7 精度区分 要素毎のデータ精度の区分で、「3-8 データファイルのコードの種類」の(8)により入ります。  
 8 注記区分 実データが注記の場合、漢字が、英数字かの区分で、「3-8 データファイルのコードの種類」の(9)により入ります。  
 9 転位区分 真位置に対してデータの進行方向の右側に転位した場合は「n」、左側には「-n」と記述します。nには取得分類コードに優先順位の高いものから1.2.---と記述しています。  
 10 間断区分 図面出力において適用される区分で、間断する場合は「n」、間断しない場合は「0」と記述しています。nには取得分類コードに優先順位の高いものから1.2.---と記述しています。  
 11 データ数 データタイプによって記述内容が異なり、E1~E6...座標数、E7...漢字又は文字数となります。  
 12 レコード数 当該要素が持つ実データレコード数です。  
 13 代表点の座標値 データタイプによって記述内容が異なり、E5...その点を持つ座標値、E7...始点座標(最初の文字の左下座標)となります。但し、座標は、図部左下からの測地座標(cm)となります。  
 14 属性数値 等高線、独立標高点等の標高値(cm単位)です。  
 15 属性区分 実データが属性の場合、属性データの種別区分です。  
 16 属性データ書式 実データが属性の場合、そのレコードに記述されている内容の書式(例 13、A15、N8)です。  
 17 データ取得年月 当該要素を取得した年月(西暦の下2桁及び月)です。  
 18 注記書体区分 実データが注記の場合、直立等線体を示す注記書体コード「2」が入力されています。次にくるレコードが注記コード以外の場合「0」となっております。  
 19 要素識別番号 要素識別番号の反復回数を示す番号で、最初の1~9999は「2」を、次の10000~19999は「1」を、次の20000~29999は「3」を入力して入ります。  
 20 反復回数

図-5 グリッドヘッドレコード

レコードタイプ	図式分類コード		要素識別番号		階層レベル	グリッドセルサイズ	グリッド原点座標地		取得年月	空き領域																																																																									
	図式分類		空き領域				グリッドセルサイズ	グリッド原点座標地																																																																											
	コード	項目	目次	行				列			座標値	座標値																																																																							
A2	12	12	16	14	12	17	17	17	14																																																																										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

- レコードタイプ [GΔ]と入力しています。
- 図式分類コード 図式分類コードを入れるものとし、上位2桁がレイヤコード、下位2桁がデータ項目コードからなっています。
- 要素識別番号 図郭毎の図式分類コード別の順序番号で、個々の要素を識別するためのものであり、同じ図式分類の中にも異なる識別番号がつけます。
- 階層レベル 当該レコードの階層上の位置(グルーピングを行わない場合は2)です。
- 行数 グリッドデータの横(X)方向の並びの数です。
- 列数 グリッドデータの縦(Y)方向の並びの数です。
- レコード数 当該グリッドデータの実データレコード数です。
- グリッドセルサイズ グリッドデータの格子点間距離です。
- グリッド原点座標値 グリッドデータの原点座標値です。
- 取得年月 当該グリッドデータを取得した年月、西暦の下2桁及び月で表現しています。

図-6 座標レコード

座標値	座標値		座標値		座標値		座標値		座標値																																																																										
	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y																																																																									
	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)																																																																									
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17																																																																									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84

- 座標値 図郭左下からの測地座標(cm単位)で、要素レコードにあるデータ数と同じ座標数を持ち、7以上の場合は複数レコードが連続します。  
 (1)線...線上の経過点の座標値  
 (2)点...1点の座標値  
 (3)円...円周上の3点の座標値  
 (4)円弧...円弧上の3点の座標値で、円弧の始点、円弧上の任意の点、円弧の終点の順に持つ。  
 (5)方向...坑口等の向きを規定するために用いるもので、2つの座標を組として方向を表わす。最初の座標値は、その要素の中心位置で、次の座標値が方向を表わす。

図-7 注記レコード

縦横区分	文字列の方向	字大 (cm)	字幅 (cm)	線号	注記文字
11	17	15	15	12	A64 or N32

- 縦横区分  
文字列の並びが縦か横かの区分で、0...横書き、1...縦書きとします。
- 文字列の方向  
注記の表示方向を示す角度で、単位は度(-180~180)とし、図-7.1のとおりです。
- 字大  
注記文字の大きさで、単位は10分の1mmとします。
- 字幅  
文字と文字の間隔で、単位は10分の1mmとします。
- 線号  
字の太さを表す線号の号数です。
- 注記文字  
漢字又は文字データ(JISコード)です。要素レコードのデータ数が、漢字の場合33、英数字の場合65以上の場合は、注記レコーを複数連続します。

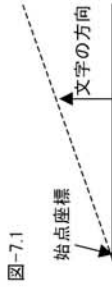


図-8 属性レコード

属性データ	属性文字
1	属性文字

- 属性データ  
書式は、要素レコードに記述された「属性データの書式」によります。  
要素レコードのデータ数が2以上の場合、複数レコードが連続になります。

図-9 グリッドレコード

数値	数値(1)	数値(2)	数値(3)	数値(4)	数値(5)	数値(6)	数値(7)	数値(8)	数値(9)	数値(10)	数値(11)	数値(12)
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

- 数値  
各格子点の数値。数値地形モデル法(DTM法)による標高データを示す場合は、Z座標値(cm単位)となります。  
全グリッドポイントを示すまで連続して記述します。データは、原点(左下)から右上へ、連続して記述されます。

## 4. 製品についてのお問合せ

---

本製品仕様及び使用の範囲等についてのお問合せは、下記までご連絡ください。

株式会社ミッドマップ東京

〒153-8555 東京都目黒区東山2-13-5

TEL 03-3714-9833

TAX 03-3792-3205

e-mail : [midmap@midmap-t.co.jp](mailto:midmap@midmap-t.co.jp)

受付時間／10:00～12:00 13:00～17:00（土・日・祝日・年末年始・ゴールデンウィークを除く）